



今回は、霊長類学一日実習の報告です。

◇ 陸域生態系、生物多様性、絶命危惧種、自然遺産の保全。すべてSDGsです。



◇ 日本モンキーセンター（JMC）で野外実習を行いました！

期 日： 2018年8月11日（土）10：00～16：00

参加者： 生徒10名 教員2名

内 容： ○コンゴ共和国におけるボノボの保全活動

新宅勇太先生

○行動観察実習（ボリビアリスザル・アビシニアコロブス）

赤見理恵先生

<保全活動について> 午前中は新宅勇太先生より、コンゴ共和国におけるボノボの保全活動に関するお話をうかがいました。森林伐採、気候変動、ブッシュミート、捕獲等、霊長類をとりまく厳しい環境について、具体的なデータや写真・動画をもとに解説していただきました。

自然科学部霊長類研究班では、従来から続けているゴリラの行動観察に加え、今後は、熱帯雨林やそこで暮らす霊長類の保全活動の研究も行う予定です。

<行動観察実習について> 午後は、ボリビアリスザル、アビシニアコロブスの行動観察を行いました。それぞれ30分、1分刻みで行動を追うフォーカルサンプリング観察法をもちい、2人1組で特定の個体を追い記録を取りました。木立の中を縦横に飛び交うボリビアリスザルの追跡に苦勞しつつも、協力し合いながら個体を追い続けると、だんだんと眼も慣れてきます。一方のアビシニアコロブスはオリとガラス張りの展示室を往復。行動に何らかのルールがあるのか、そんな疑問を持ちながら記録を取りました。取ったデータを簡単にまとめて円グラフにし、分析結果をペアごとに発表して共有しました。





◇ 霊長類学一日実習の感想

■ヒトも霊長類に属していて、ヒトに近い生物を研究することは、ヒトの生活と動物の生活をともによりよくできるということが分かりました。

絶滅しそうなの動物を救うための保護区は、現地の人々の理解も得ないといけなないので、簡単には設置できないことから、絶滅危惧種の動物を保護するのは非常に難しいと思いました。

実際に個体識別の観察をしてみて、そこから分かる個体の性格を判断するのは難しいと感じました。これからも活動を積み重ねて、より深く考察ができるようにしたいです。

■今日のモンキーセンターでの研修は学ぶことがありました。実際に観察したことも興味深いことはあったのですが、一番感銘を受けたのは最初のお話の中にありました。

私は、モンキーセンターは多くのサルがいるところという認識しかしていませんでしたが、実際は保護もしていると聞いてすごいなと思いました。もっとそのことを今以上に広報すれば、協力してくれる人が増えるだろうとも思いました。また、生物を守るといっても現地の人の生活があるため難しいという話にハッとさせられました。口で言うだけなら簡単だけれども実行しよ

うとすると難しいという現実を見せられました。

園内のサルの種類が減ってきている中、また外国から輸入してくるのという方法を取らないモンキーセンターさんの意向にはとても感動しました。本当にサルの保護を優先されていることが伝わって来ました。

■先生から指南してもらった方法なら観察方法でのボロは最小限に抑えられると思うので、東山動物園の新施設公開までに自分たちの観察方法についてじっくり見直したい。

■今まで見たこともない霊長類について楽しく様々なことを教えてもらえて面白かったです。そして、率直にすべての霊長類が可愛くて、癒されました。ただ、リスザルのハロのLOSTが13回もあり、東山動物園ではそうなるはならないと思いました。行動を記録している間に個体を見失うというのは、今までに何度かありました。それをなくす工夫として、記録係と観察係に別れるというのを東山動物園でも用いるべきだと思いました。考察中の反省点は積極性のなさです。手を挙げるべきと思っていましたが、誰でも思いつくことを言うのは恥ずかしいので、できませんでした。自分の意見に自信を持って発言するために、知識が必要なことを改めて感じました。

■今日は、いつものフィールドワークと違う動物で違う記録方法で観察することができたので、面白かったし、とても勉強になりました。また、モンキーセンターでは、動物のことを考えて活動している事が印象的でした。今日の事を生かして活動できるように頑張りたいです。

今日の活動を通してセミナーでは、ボノボのことを知らなかったのが、チンパンジーのようだけど別で、人間に最も近い霊長類と知って驚きました。行動観察では、同じ霊長類でも、種によって、群の個体同士の関わり方が違うのを実際に観察することができ興味深かったです。また、考察の交流を通して自分以外の考えを知れたり、先輩方のゴリラとの比較した考察を聞いて勉強になりました。

■僕はこの研修で2つのことを学びました。

1つ目は観察方法です。いつもとは違い2人1組になって観察をして、とても観察しやすかったです。ゴリラの観察は今回行った観察よりも難易度が高いと思います。だから、東山動物園でも2人1組で観察するのも良い方法だと思いました。

2つ目は同じ種類でも個体差があるということです。今回の観察でも活発に動き回る個体やあまり動かない個体など個体差が見られました。年齢や性別など理由は様々だと思います。今後の観察でもこれらに着目していくのも良いと思いました。

今回の研修は赤見理恵先生に直接指導してもらうとても貴重な機会でした。今回多くのことを学んだので、今後の研究に活かしていきたいです。

